

第567号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2016年 6月16日
発行責任者 喬木村公民館長 橋本 美穂
編集責任者 公民館編集部 長 仲田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

公民館楽遊塾 第一講座
木曾路へ行こう

青く澄んだ空の下、爽やかな風が気持ちの良い五月八日(日)、公民館楽遊塾第一講座が行われました。木曾路への楽しい旅の始まりです。伊那から権兵衛トンネルを通り一時間半程車を走らせ、奈良井宿を指すのですが、徐々に山々の深い緑が迫ってきました。木曾へ入ったことを、山の雄大さと、冷たい風に実感するのでした。

奈良井宿へ到着し、車を降りた時「寒い！」とつい言葉に出る程でした。少し早かったのか、宿場町跡は閑散として、静かな家並みを観察することが出来ました。それでも手作りの民芸品の店や、見事な木曾漆器の店など、なかなか高価で手は出ないけれど、目を惹かせる素晴らしいつげ櫛など見惚れてしまうのです。手頃の値段だと思えば中国からの物だそうで、ある店の店主が「この辺り一帯、中国からの物が多くを占めているけれど、日本の技術を大切にしたいから、職人ワザの物を置きたい。」と話して下さり、胸打たれる思いでした。歩いてみると美味しそうなおやき、焼き煎餅等、お茶のサービスもあり、あちこちでほおばっている姿がありました。楽しい散策を終えて、記念写真を撮り、いざバスに乗ってお食事の場所へ、木の店など、なかなか高価で手は出ないけれど、目を惹かせる素晴らしいつげ櫛など見惚れてしまうのです。食事の後は、赤沢美林の森林浴です、森林鉄道へ乗る人、散策を楽しまれる人、それぞれ別々の出発です。森林鉄道の切符はひのきの板に焼印を押してあり、素敵なお土産になりました。列車から見る景色は、美しい木漏れ日の中、森の息吹を感じさせてくれるのでした。帰りの歩きでは、呑雲(どんぐり)の冷たい水の澄んだ流れや、水芭蕉が緑の中で際立って美しい白を咲かせているのが印象的でした。又、トウゴクミツバツジも鮮やかにピンク色を固持

『椋鳩十ものがたり』40

『椋鳩十全集』掲載作品

椋鳩十全集三
「山の大将」その三
昭和四十四年十一月

くさりをはずしてもらった黒い星は、太郎のあとをおつて外へかけだします。そして、谷川にそって、奥へ奥へと進みます。途中豪雨にであいます。濁流に流されそうにもなります。「太郎は黒い星にじっとしがみつきました。…その体温で寒さをしのぐとしたので



参加者の皆さん(奈良井宿にて)

しているようでした。風も心地良く馴染んだ頃、帰る時間となり、赤沢美林をあとにし、今話題の郷土力士、御獄海の故郷、上松町を通り過ぎ、清内路峠を越えて喬木村へと元気に帰って来ました。

お知らせ 広島平和のバス運行事業 参加者募集中!
村では、今年度も『広島平和のバス運行事業』を8月5日(金)～6日(土)に実施します。平和推進事業の一環として広島に赴き、広島平和記念式典への参加、原爆に関する施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや被爆の恐ろしさについて理解を深めてきたいと思ひます。参加を希望される方は、今月の組合回覧チラシをご覧ください。

折り鶴を募集しています!!
『広島平和のバス運行事業』で広島まで持って行く折り鶴を募集しています。大変恐れ入りますが、5cm×5cm程度のサイズで作成をお願いします。平和への想いを折り鶴に託しましょう。できた折り鶴は、お手数ですが教育委員会までお持ちください。



思わずつぶやきました。しかし、この喜びもつかのまです。自分たちの避難した場所は、崖の中ほどにある大きな岩の上だったのです。よじのぼる手がかりはなにもありません。下はどろ水が猛烈ないきおいで流れています。「太陽が高くのぼるにしがって、こんどは暑くなってきました。…あせの玉がふきだしてくるのです。のどもかわいてきました。…そんな時、黒い星は草の根のクゲをなめてコケの水分をチュウチュウすいます。一安心です。「黒い星は岩をぬきとったあとを前足でひっかきまわりました。と、スキの根や山ユリの球根が太郎たちのいる岩

あこの時
以前に馬場の育成会で「蜜を見る会」というのをやったことがありました。鞍馬沢から小川の堤防を回って蜜を見ようというものでしたが、年によって蜜の発生日や発生数がいふん変わりますし、馬場では6月の終わりに毎年小川の河川清掃をして、河川敷や土手の草刈りをしていくのですが、それが終わると蜜は姿を消してしまします。そんなわけで蜜が飛び交う期間が大変短いので、当日どうなるのかとても心配で毎晩様子を見て回りました。当日は中央保育園前集まってもらって、蜜についての話をしてからみんな役場まで歩いて蜜の観察をしました。話が終る頃から蜜が飛び交い始め、思ったより多くの蜜を見ることが出来ました。中には近くにきた蜜を捕まえた子どももいて、暗い中歓声が上がりました。夕涼みを兼ねたのか、親子連れで大勢の皆さんが集まってくれて、地元の豊かな自然に触れていただくことが出来ました。中にはこんな近くに蜜が飛んでいるということを知らなかつた人も多く、地元を見直す良い機会になったのではないかと思います。私たちの小さかった頃は川の畔や田んぼの上に蜜が飛び交っていて、そんな蜜を捕まえてきて蚊帳の中に放して遊んだ記憶がある方も多々思ひます。いつの間にか、川はコンクリートで固められ、蜜の数は激減してしまいました。でもまだ蜜が住める環境が残っていること、そういう環境を守っていくことの大切さを子供達に伝えていきたいと思ひます。

たかぎスポーツクラブ

子どもから大人までのテニス交流大会!

五月二十八日(土)、「たかぎスポーツクラブ」主催の第二回テニスエンジョイダブルス大会が開催されました。子どもから大人まで三十二名が4つのチームに分かれて、色々なダブルスのペアをつくって試合を楽しみました。

大会は、チーム毎の総ゲーム取得数で順位を競うもので、優勝争いは最後の1試合までもつれました。しかし試合は終始とても和やかなムードの中で行われ、たくさん笑顔が生まれる素晴らしい大会となりました。



参加者みなさんの集合写真!



大人対子どもの試合も実現!

平成二十八年度

分館対抗パタンク大会

五月十五日(日)に喬木第一小学校グラウンドを会場に分館対抗パタンク大会が行われました。今年、過去最多の十一分館三十八チームが参加し、八つのブロックに分かれて

熱戦が繰り広げられました。天候にも恵まれ初めての方も含めて老若男女が混合のチームで試合を楽しむことができました。結果は次のとおりです。

大会後には運動公園でパーベキューが行われ、総合型クラブならではの世代を越えた交流がたくさん生まれたイベントとなり、大盛況。参加者からは「次は秋にやりたい」と、早くも次の企画を望む声も聞かれました。

たかぎスポーツクラブでは、今後も様々なスポーツイベントを企画予定です。こんなイベントがあったらいいな!など、ぜひご意見をお寄せください。

たかぎスポーツクラブ事務局
(電話 三三二二〇〇二)



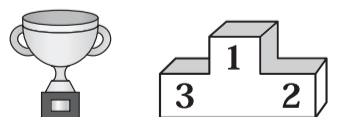
パタンク競技の様子

分館対抗パタンク大会結果表

	優勝	準優勝
Aブロック	伊久間B	郭 A
Bブロック	梶原A	田上川C
Cブロック	氏乗 B	北 A
Dブロック	北 C	田上川A
Eブロック	上平 A	梶原C
Fブロック	町 C	伊久間A
Gブロック	伊久間C	田上川D
Hブロック	田上川B	伊久間E



8ブロックから優勝・準優勝の16チームを表彰(閉会式)



編集後記

参院選の日程が決まりました。今回から選挙権年齢が十八歳以上となる。我が家にもお年頃の息子が二人いるのだが、長男は確実に二十歳の誕生日前に初選挙を経験することになる。次男は十八歳の誕生日の一カ月前のため、今回は参加できないので「残念だったね」というと、「え、いいよ別に」という返答。多くの高校生にとっては政治が思ったより興味のある世界ではないというのが現実なのだろう。さて、親としてはそんな息子に選挙とは、政治とは、と語れるのか...?

たかぎ俳句クラブ 皋月句会

ランナーの山路越えゆく藤の花
御柱気合込めたる谷落し

もてなしの客間に香る沈丁花
白木蓮を飾る屋台の囃しかな

一時を花の精なすポピー園
権現の雲変はりゆく田を起す

うばいあひ遊具で遊ぶ子供の日
雨上り夏めくみどり鮮やかに

村山たか子

秦 恭子

小林 かつ

田中 君子

成長を刻む柱や子供の日

腕豆のはしり一品膳を待つ

せせらぎの月を奏でる河鹿笛

立山へ挑む卒論の目途も立ち

砂場 文子

原 美恵

吉川てる子

本山 栄信

松尾萬理子

松葉 孝子

15年連続 金メダル獲得!!

チャレンジデー2016



田上川消防センターにて

五月二十五日(水)午前六時、くりんネットによる市瀬村長の呼びかけでチャレンジデー二〇一六がスタートし、村内各所で様々な取り組みが行われました。今年で十五回目の参加となる当村は、今回が六回目の参加となる北海道本別町と対戦しました。

結果は、当村全体で四、二八六人という多くの方に参加いただき、参加率は昨年を二・一%上回る六五%に達し、十五年連続で金メダルを獲得することができました。

一方、本別町の参加率は最終的には五八・二%となりました。翌朝本別町のメインポールに喬木村旗が掲げられ、誇らしげにたなびく喬木村旗の写真が届けられました。

今年で十五回目の参加となるチャレンジデーが健康維持のためのスポーツや運動に親しみ、チームの「この日をきっかけに体を動かしまいか!」としてのきっかけづくりが、普段から体を動かす習慣として定着してきたことをあらためて感じるイベントとなりました。

実行委員の皆さまには準備段階から当日のイベント運営や集計に至るまで、ご協力いただきありがとうございます。 (チャレンジデー事務局)